令和６年度
伊勢崎市立坂東小学校
学 校 通 信

ばんどうたろう
坂東太郎

第　22号
令和6年9月3日（火）発行
校長　関根　崇史

児童のみなさんへ～二学期のスタートにあたって

二学期がスタートしました。みなさんの声が聞こえない学校はさびしいものでした。昨日、笑顔で、元気に登校するみんなの顔を見て、「また楽しい毎日が始まるな」とウキウキした気持ちになりました。夏休み中に大きな事故などもなく、全員で二学期がむかえられたことを何よりうれしく思っています。

一学期の終業式でも話をした３つのお願いについては、すべてが１００点満点になるように、二学期も意識をしていってください。一学期終了時の校長先生が思う点数と、こうしてほしいという願い（こうなったら１００点満点）も書いておきますので、もう一度確認をしてみてください。

元気にあいさつをしよう　　一学期終了時　８０点

９０点：全員とあいさつが行き交う（あいさつをしたら返ってくる）
１００点：全員が自分から進んであいさつができる

思いやりをもって人と接しよう　一学期終了時　７０点

８０点：つらい思い、悲しい思いをする人が少なくなる
９０点：つらい思い、悲しい思いをする人がゼロになる
１００点：誰もが相手の立場に立って物事を考え、周りの人を笑顔することができる

大切な命を守ろう　　一学期終了時　９０点

１００点：一人一人が「自分の命は自分で守る」意識をもち、大きな事故やケガがない

さて、夏休み中に４年に一度のスポーツの祭典「オリンピック・パラリンピック」が開催されました。今回はフランス開催ということで、日本とは７時間の時差がありました。そのため、競技の多くは日本時間の深夜になってしまい、みなさんが生中継で見るのは難しかったかもしれません。校長先生は、どうしても見たい競技は頑張って起きていたため、だいぶ寝不足になってしまいましたが、選手たちの姿から、たくさんの勇気と感動をもらいました。なぜ、これほど感動するのか？　それは選手たちがこの日のために努力を積み重ね、「真剣」にそれぞれの競技と向き合い、全力を尽くしていることが伝わってくるからだと思います。「真剣」だからこそ、うまくいったときや勝てたときの喜びも、そうでなかったときの悔しさも大きいのです。「真剣」だからこそ「感動」が生まれ、競技者自身だけではなく、それを見ている人たちの心も強く揺れ動かされます。

「真剣」に取り組み、「感動」を味わうことで、人は「成長」していきます。みなさんもこの二学期、普段の授業はもちろんのこと、様々な学校行事にも「真剣」に取り組み「やりとげた」「できた」という「感動」を味わってほしいと思っています。もちろんすべてがうまくいくわけではないので「がんばったのにできなかった」「思ったような結果が残せなかった」という悔しい思いをすることもあるかもしれません。でも、そういった経験も人生には必要なことなのです。そして、それによって得られる「成長」を積み重ねていくことが、今後の人生を支える土台となります。そういった経験が多ければ多いほど、自分を支える土台は強く大きくなっていきます。つらいことや苦しいことがあったとしても、しっかりとした土台があれば、ゆらぐことなく、乗り越えていくことができるのです。

真剣→

感動→

成長